生徒に見られるつまずき

論説文を再構成し、本文の要旨をつかむことができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　段落の順序を変えた文章を提示し、正しい順序の根拠を考え、グループで交流させたり、習った説明文の形式を使って作文を書かせたりし、論理的な読みを深めることができるようにする

指導事例集ｐ．３９

１　学年・単元名　第１学年　分析的に考える「ペンギンの防寒具」三省堂（読むこと領域）

２　単元目標

　　段落相互の関係を考えて読むこと。

３　単元の内容

　 ・「本論」→「結論」→「序論」の順序に本文を提示し、グループで本文を再構成する。

　　　（段落ごとの方がより効果的である。）

・順序の根拠をグループで交流させ、１つの仮説を立てる。（本時）

資料：ワークシート①・記入済みワークシート

・本来の本文の順序を提示し、筆者の考えをグループで推論する。（本時）

資料：ワークシート②・記入済みワークシート

・学習した説明文の形式を使って作文を書く。

資料：ワークシート③④⑤・記入済みワークシート

４　本時の目標

　　⑴　段落相互の関係を意識しながら筆者の考えを推論する。

　　⑵　グループの中でそれぞれの考えを述べ、より深い推論にする。

５　本時の展開　**太字はつまずきに対する手立て**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １．前時の復習と本時の目標を確認する。筆者の並べた順序を知り、段落相互の関係を知ろう。 | ・前時に並べた順序をワークシート①で確認。 |
| 展開 | ２．順序の根拠を考える。　　①ペア　　②個人　　③グループ３．本来の本文の順序を知り、自分たちの根拠と比較し、意見をまとめる。４．それぞれの意見を発表。共有する。５．完成したものを序論・本論・結論に分け、それぞれの段落の性質を確認する。 | ・グループワークの順序を工夫することにより、意見を持てるようにする。①ペアで考える手立てや目安を交流することで安心して考えられる環境を整える。②個人で①で気付いた手立てをもとに自分の根拠を相手に伝わるようにノートにまとめる。③グループで司会を立て、全員の意見を出させ交流する。・互いの意見をまとめ、順序と説得力のある根拠を考える。**・グループで司会を立てたまま、順序が違っていた部分を確認し、そこから相互の関係をグループで話し合い、気づいたことをまとめる。**ワークシート②使用・司会者に発表させる。・その後、教師が全グループの内容をまとめる。　（接続語、本文のキーワードなど。）・整った言葉でなくてもよいので互いに意見を言わせ、最後に教師がそれぞれの相互の関係を言葉で確認する。 |
| まとめ | ６．本日の振り返りを行う。 | ・段落相互の関係について話し合ったことを中心に振り返らせる。・次回は「わたしの宝物」について作文を書くことを予告しておく。 |

６　準備物

　ホワイトシート

７　つまずきの解消に向けて

1. 単元における予想されるつまずき
	1. 順序が並べ変えられない。
	2. 根拠となるキーワードを見つけることができない。
	3. 相互の関係や、それぞれの論理の展開における性質を理解できていない。
2. つまずき解消に向けた取り組み
	1. に対して

・順序が書いてある言葉を中心に、まずは見つけ出せるように声をかける。

・わからなければ、どんどんお互いに尋ね合い、話を広げてキーワードや手がかりを見つけていく。

* 1. に対して

・①の段階で少しは手がかりを見つけられているので、ペアワークでさらに意見を出し合い、根拠の材料を増やす。

・ペアワークで出た意見をもとに個人で考える時間を確保する。

・個々人がしっかりと意見を出し合えば、グループワークでさらに意見が広がり、深まっていく。

* 1. に対して

　　・小学校時に習った、「はじめ」「なか」「おわり」を意識させる。

　　・性質を言葉にすることが難しければ、便覧や教科書を手掛かりにしてもよいことを伝える。